

心  
の  
聲  
を  
聞  
く

027
108
2

027
108
2



かきまふ

政七年甲申春

芳野記行

天門よりむらう多々此處石をふりて此處を  
 行く全分まらち小千里の如し舟をたにこ  
 風の特の奇渺軽ふとと麓境も及り風象ふ  
 東をり此風子のふ

寫 莖

雲とくく平をさす色の首色かた

茎く平と時まみあけ糸の

根糸く平難子此本ろせ糸より平て

幼ららちくととめんりの干を

根糸く平向けまは流編ふさ糸かへて

糸はく平むしり茎乃とせやあら

糸く平く平茎をたある糸の茎

洋布祿

蝸 堂

多宮丸

寸 風

莖

祿

一

敷もく平丸一法の口々

銀角の細さを注ぐく平さうけく

ちひさいりより初親注く平

餅粉く平染陸の平帯括志のけ也

く平く平く平丸林注けく平

夕如のく平丸く平丸月のみ

姫路乃秋の城の小き丸

平く平くと油平と茎をく平菜約て

平く平と麻をく平く平丸

堂

丸

風

莖

台

史子

撫令

扇和

丸

身入るるに眉かきささくしゆり歌き  
 夏を柳乃ふく南まよ々しふ  
 志乃百念能世を終し地を是る日か  
 かなはひしむつみ古塚  
 足踏つしふ牛の波歌九千折  
 旅乃あふくしへ小朝仕入ふ  
 動のあそびかきしにさし返さ  
 あそびのつらと懐吹て旅る  
 明まよひしむふか竹の弾いさみ

風 手 堂 宇 橋 台 風 令 笙 槁

あつととくもふふ二とをこりしとよ  
 ぶ花もしまく世いさのつらき乃松  
 静 遠く鳥ふ法轉能かひ  
 藤のらんを象根のまじにさあつ月  
 双 坊の早稲乃高汐を乗る  
 多社空淫の八代藝科しむまよ  
 思木の清所乃深ゆきしむく  
 屋より動をふかむこのまひしむく  
 病しあそびのかきしむ大物ッ

台 丸 茶 静 堂 子 令 笙 静

窓より海を望む 寝る 窓の頂  
丸  
あはれききけけけ 煙 かくく 若

鶯 五句 浮布祿 二句 蝸堂 四句

夕宮丸 五句 寸風 四句 台 三句

史子 三句 楳令 三句 扇和 一句

宇橋 二句 老樗 一句 茶靜 二句

寮頂 一句

海の邊 浪々々々々々 海を望む 窓の頂

園を 入る 是の 地

一

教々々々々々 窓の 柳うか 寸風

二

初々々々 一々々々 老樗

三

窓 井 井 教を 見 夕の 海 望 ん 可 祈

四

ワ純粋くくさきさきやひささ

解 蘇ありと交るとは秋歌不ぞれん

お煙も けろと 是 一 於 中 年 有 吏 牛

みー(お)ち(き)を(た)ね(れ)の(ま)は(ら)を(ま)も(と)す  
ほ(と)と(き)を(ま)の(ま)の(ま)を(ま)の(ま)を(ま)  
あ(は)れ(ま)は(ま)は(ま)は(ま)は(ま)は(ま)  
ひ(ま)は(ま)は(ま)は(ま)は(ま)は(ま)

笠 鶴 子 柳 於 扇 和

さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ さ

おの 枝 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

白 今  
多言丸

山 燒 の 消 一 鶴 子 柳 於 鴨 乃 乃 乃 史 子

阿の 跡 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

白 子 乃 松 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 洗 古

赤 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 吳 亮

白 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 霍 布

町 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 蝸 堂

鴨 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 李 江 女

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 樹 村

月 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 妻 木 女

花梅をき一松竹を結わくかふ小 宣石

白きやゆき清むも白くも白く 一底

花の雪ききく山やさるる花のつ 直一

ゆきこのゆきその名負をを陶のわんこ

白きゆきまて白く入るさるる花のつ 竹魯

白きゆきまて白く入るさるる花のつ 田舎

官袴のゆきまて白く入る

白きゆきまて白く入るさるる花のつ 董崖

門松や子代松風の根をくく 理臧

古乃と云葉を解ふはく人ん 乙人

空かきくはくはくはくはくはくはく 環趾

小屏見て葉の仕切る白くはく 竹山

萩と秋やまをむきくはくはく 寄春女

まゝ一初けた引ぬち腐の竹くはくはく 蕪街

ちあはくはくはくはくはくはくはく 那布祿

万葉の御さう松葉焚くはくはく 蓬室

吹降を山かきくはくはくはく 襟令

白きゆきを破るはくはくはくはく 白圭

長ふや乃なうたまもも峯の月  
 影をえる月夜のまもありにうま  
 師の屋ふ背くまもあらんおけり  
 音といふもやあまうまおのひ  
 衣あくとまわかへしあゆみけ  
 子代舎はあふ注連たるまをうら  
 如言も用しれまきやあかにあし  
 耳撥くあまもあつた乃橋  
 まの橋ち日かへらぬ重涼  
 寮 頂  
 露 芳  
 宇 橋  
 孔 梁  
 五 介  
 台 々  
 冑 二  
 子 安 岐  
 宝 水

六

垂縁とたふ位もあまん明石沿  
 鳴とあまふ起も獲うぬあつた  
 孫の乃雛子啼くとまや帳の御き  
 衣くと啼くあまやまは乃唐  
 うらまはあま啼や厚もいりまれ  
 孝の鳴や丁稚うかうあつた  
 中とあまは櫛姫いりまぬあまの状  
 うらまはあまはあまやまをまさす  
 花川のまをまあつたぬ丁あま  
 雨 瀬  
 米 花  
 琢 旦  
 沙 磧  
 不 及  
 祚 由  
 承 禪  
 晋 至  
 花 川 子



四時混雜

詠物

雪のつらやを江の入口伊勢の月  
空のまやにさし照らす雲のかり  
深柳やみはるく赤い鳥のさ  
多層のまのれも夏書この柳  
刈草のまもあくるやもさばに  
ささや赤い柳のまもさばに

雪 雁  
夢 南  
双 湖  
詠 師  
車 雨  
桃 見

七

七のやうくとまをく赤い柳  
さしてつれは根や梅干のさ  
赤い柳のまもあくるやもさばに  
上戸のまもあくるやもさばに  
赤い柳のまもあくるやもさばに  
柳のまもあくるやもさばに  
柳のまもあくるやもさばに  
柳のまもあくるやもさばに  
柳のまもあくるやもさばに  
柳のまもあくるやもさばに

珉 古  
可 壺  
蕉 雨  
應 々  
心 非  
雪 彦  
護 物  
碓 嶺  
南 井

小笠原の菅根 柳々や 藤乃 山  
 ささき 志保 や すき 純 柳 ちり 人の 影  
 川 馬も 馴 且 とき 一 中 け 女 根  
 冬 水 春 々 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 長 夜 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 雪 子 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 口 切 や 初 春 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 を 一 純 柳 乃 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 流 糸 の 柳 乃 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一

太 節  
 野 史  
 玉 光  
 久 藏  
 一 蕙  
 右 雄  
 獅 雄  
 社 英  
 孤 山

ゆくさねの園

心 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 と 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 と 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 井 柳 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 為 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一  
 黙 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一 冬 春 一 一

一 瓢  
 雪 可  
 有 鱗  
 巢 鳩  
 其 逆  
 嵐 窓

垣 乃 紺 賣 冬 一 梅 乃 冬

瀾 右

山甲や獨も崖も ちりり 泣く  
燈舟の入り 燕千と ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり

木甫  
采明  
龜友

夫まう 眠う 七 舞さん 板の縁  
鐘も ちりり ちりり ちりり  
鈴舟や ちりり ちりり ちりり  
湯上り ちりり ちりり ちりり  
夢物あ の ちりり ちりり ちりり

卓池  
秋舉  
二岳  
楚岳  
赤守

ちりり ちりり ちりり ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり  
ちりり ちりり ちりり ちりり

沙鷗  
野秀  
唐汀  
芝石  
木天  
槐翁  
而石  
楚橘

夢を乞ふおつとと夢の浦の夢  
まゝにみれば人々似く秋の夢  
まはれぬ地ゆく流をうたうた

咲菊  
大葉  
月秀

梅の心も秋海も似たりと案  
大文まうなゆくとや謀ふ  
かゝひまゝの月々の中や梅ふ  
梅も葉の門田乃部一人  
梅の心飛雪まゝにうたふ

霞外  
松園  
蘭舟  
西木  
和峯

+

折くまゝく佳き花梅の心  
田舎のゆきとひきありと梅門  
青柳や此一揮う筆のうた  
意燈しく三日月の光の影  
人あつとこの心は痛く二日  
少くもや日和りて茶の露  
遠くを人里の木の木下  
水まゝに流るる水は木下  
そこの心あつとけと我に

養中  
斧杖  
蚊山  
椿堂  
昌作  
畚氏  
大暁  
麓山  
丹霞

あくゆけとさへられとさうとて  
 魚の脣へさうとさうとて 佛のうら  
 呼ぶまをさうとさうとて 折さうと  
 海を月影の河をさうとさうとて  
 さうとてさうとてさうとてさうとて  
 子やさうとてさうとてさうとて  
 月影をさうとさうとてさうとて  
 さうとてさうとてさうとて

推己 團釋 芙蓉 無牛 野渡 杉永 四澤 宗古 龜年

工

旅をさうとてさうとてさうとて  
 麻の葉にとさうとてさうとて  
 うさうとてさうとてさうとて  
 泣ありとてさうとてさうとて  
 葉のさうとてさうとてさうとて  
 ゆくさうとてさうとてさうとて  
 雲月や伊勢の海さうとて  
 さうとてさうとてさうとて  
 燈の中へさうとてさうとて

省吾 雨木 翠川 杉長 麥村 南稚 松園 井里 六車

白くも 霞のふりしるる 二日 虚舟  
 赤くも 霞のふりしるる 二日 洪石  
 白くも 霞のふりしるる 二日 石  
 白くも 霞のふりしるる 二日 巨網  
 白くも 霞のふりしるる 二日 南草  
 白くも 霞のふりしるる 二日 菊浜  
 白くも 霞のふりしるる 二日 卜蝸  
 白くも 霞のふりしるる 二日 藤明

三

白くも 霞のふりしるる 二日 申齋  
 赤くも 霞のふりしるる 二日 志う  
 白くも 霞のふりしるる 二日 素律  
 白くも 霞のふりしるる 二日 閑齋  
 白くも 霞のふりしるる 二日 子影  
 白くも 霞のふりしるる 二日 虚白  
 白くも 霞のふりしるる 二日 蕙布  
 白くも 霞のふりしるる 二日 于當  
 白くも 霞のふりしるる 二日 士例

雲霧落千尋  
 孫ふたもや月のみ  
 大津酒  
 高  
 赤  
 仙  
 月  
 李

素童  
 蒼虬  
 空阿  
 六倉  
 風也  
 仙艸  
 月居  
 岱李

廿日海と牡丹と  
 菊の梢より  
 糸あはれ  
 池  
 鳥  
 五  
 世  
 株  
 無  
 一

管鳥  
 金葉  
 布雪  
 鳥頂  
 五錐  
 世南  
 株價  
 無物  
 一路

江の島に都到時をよきと純是  
ささりとを著さすいし山清の  
わとさぬあつちたるん都の眉  
飛志家に著る川と橋白うら  
敷る川に組屋家あやまの月

茂推  
白緑女  
十文  
霞岫  
李谷

鶴の横んくきそとまきそく秋  
ふりそくも樽の中よりかくの秋

武陵  
野揚

上

灯火のつを森の島や初松実  
さす水もくくくさ川香成  
物ささの橋く小田中並ふ屋  
さそも芽をさの口あは花乃子  
笠松や雪と飛舞の著死時  
渡さや手笥のそむ福々降  
とくくくや母川とあはを女帝空  
あ愛の屋空むくくく輝く星  
磨くるはゆきうのち萩乃成

左角  
魯隠  
屋鳥  
星譜  
祇文  
木老  
冬色尼  
吳老  
奇淵



あそくかふ二代のなゆる垣根式 菊江尼  
 修浸少くし重なるまもりむ 茨 辰角  
 牡丹さく新や白紙に人の餅ふ 夢長  
 花屋さくのみ葉まぢやふの中 希孫  
 甘きしを冬あうり花ふ歩ゆ 卧鵬  
 抱くくもきくあくぬまや抱くも 長舟  
 抱くまやわくまゑあくむ 太<sup>舟</sup>橋  
 新くゆり上を垂りまむ柳の如 百吹  
 昔もゆり梅ふさくまゑゆめありと 如川

十五

橋も羽をまうもや後千一まゑも 若助  
 さそくひまうくとりれおまぬふ殿隠成 鶺鴒雪  
 月千さく丸西とまうや懐きふ 魚眼  
 十六新や一秋まゑし月かゝん 井眉  
 垣ちゆとま一隣も露の中 耒耜  
 男催合しきまのくや新の中 藍外  
 百姓の泣くまうほくま川一と地 五莢  
 星崎の雲を徳まや確此と 菘々  
 雲むりやまうくぬれく数を小川 仲齋

大是へ泣きれにゆく月夜式  
つとよつと泣ききりあふ床に汝  
夢はあやしく干破る床乃餅  
玄蛙

さき月の影も塵つらうと野の草  
すまやゆか接投もあし涙とくま  
通海や陸ををぬき猫乃く衣  
乃く涙くともへ涙をたぬき鳥  
李長  
岳竜  
鴻里  
草史

離る啼やハ横山修ひとあき  
南 路

若吟子してあきりやうとそ飛  
まあししあや中畑は是くぬふ  
夏の月吾きくかん杖乃あは  
未子

茶のむのり日向をかりと噴火  
ころしく下あそり梅のむれや  
あきとこのさびへあきと涙のひま  
柳之  
白齋  
易足

香然うらせり〜〜はる〜〜  
 う〜ひまの 秋まの 冬〜ふゆあ〜と  
 寒啼〜あ〜〜〜  
 燕 雀 鳥  
 梅の 花 枝 芽 の 影  
 様 中 々 暮 年 活 け ぬ 花 枝 影  
 翠 色 一 枝 一 葉 一 花 一 枝  
 梅 花 子 鹿 角 新 の 枝 一 枝 一 葉  
 赤 木 花 鹿 角 新 の 枝 一 枝 一 葉

宗二  
 文席  
 硯角  
 文路  
 一茶  
 可厚  
 周睦  
 瑛山  
 午堂

並ひ 花 枝 智 恵 花 枝 芽 枝  
 け 川 花 枝 花 枝 花 枝 花 枝  
 秋 風 花 枝 花 枝 花 枝 花 枝  
 空 の 花 枝 花 枝 花 枝 花 枝  
 山 花 枝 花 枝 花 枝 花 枝  
 花 枝 花 枝 花 枝 花 枝  
 花 枝 花 枝 花 枝 花 枝  
 花 枝 花 枝 花 枝 花 枝

正何  
 八朗  
 介亭  
 陸守  
 了々  
 北洋  
 天地  
 鍊弁

青柳 此のひそあやうきあきし  
 一 秋あきさうらやあやうきあきし  
 赤穂 赤穂の川に流るる水は  
 己の心とあやうきあきし  
 梅 やさしきあやうきあきし  
 てのわくと柳かやうきあきし  
 菜花 菜花のうらやあきし  
 不二の海とあやうきあきし  
 芥子 芥子のうらやあきし

石柴 乙良 月敏 馬卯 雪舟 悟明 文帯 衣彦 何免

文

斗山 石海 吟糸 三降 池塘 衆化 葵窓 杉亭 積翠

斗山 石海 吟糸 三降 池塘 衆化 葵窓 杉亭 積翠

さきまは種千吹消さ故きか  
 とまのりやあき種千一えんま  
 逐はく大の子吼るあはれいふ  
 入梅時中海のものれもさきあは  
 去る月みくまあまほくを縄  
 畑き枝一寸延乃小まこつ形  
 とのきくくやうくま一う柳式  
 免はくもまあもあせはふ十日  
 種千くくくく種千あはれは日

東 峨  
 二 川  
 梅 里  
 董 水  
 朱 潤  
 野 竹  
 桐 堂  
 湖 山  
 既 奇

元

種千そのあきを替の種千のり  
 北は路をるあはれもあはれさ  
 誰きの屋千あつひきさ夕日る  
 新あきや種千はくくあはれぬ  
 初まあきあき種千くくく乃あ

大 常  
 奇 石  
 麻 直  
 年 猪  
 草 均



